

< 運営推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	大和メディカル株式会社	事業所名	看護小規模多機能かしの木
所在地	(〒 990-2483) 山形市上町四丁目 6 番 2 3 号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護小規模多機能の特性を生かし、訪問看護と連携しながら、質の高い看護・介護の支援を行っている。今後は自宅に住まう利用者やその家族を支える為、家族や利用者の状況に応じて柔軟に対応し、随時訪問等も組み入れ、地域を支える事業所となるべく努力している。定期的な勉強会の開催、積極的な研修参加を通じて、自己啓発、介護技術の向上に努力している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2015 年 10 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2016 年 3 月 16 日	出席人数 (合計)	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (0 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (0 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (___ 人) <input type="checkbox"/> その他 (1 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		※前回まで外部評価を受審していたため、未記入		
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	〃		
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	〃		
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	〃		
III. 結果評価 (評価項目 42～44)				

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	事業所の理念、サービスの特性を理解し、支援に取り組んでいる。特に職員が安心して働くことができる就業環境は評価が高い。介護と看護の情報共有も概ね図られており、協力体制は構築できている。	就業環境の整備は離職防止にも必要な為、今後も職員同士協力し、働きやすい環境を維持していく。評価の中で、看護職との情報共有の割合が二分していた為、月1回の定期的な話し合いの場、情報共有の場を設けていく。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	機能維持を図り、利用者の変化や家族の要望に添いながら柔軟に対応できている。アンケートをとった時点では連泊者が多い状況だったが、会議を行った時点では在宅利用の相談が増え積極的に受け入れ、利用の際には事業所の特性等、説明と同意ができています。	現状を継続し、今後も在宅利用者を支える体制を維持していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	医療面との連携は概ね図られている。他事業所との関わりはサービスの特性上限られてくるが、今後検討の余地がある。地域包括ケア等の取り組みは地域住人と事業所お互いが手探り状態だが、地域の行事の参加等、できる事から始める必要がある。	現状を継続し、地域行事に参加する等、関わりの場を作っていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	開設当初から地域住民へ会議や会場の場の提供等、先駆的な活動をしている。施設主催の夏祭りも恒例行事として定着している。現在、在宅利用者を積極的に受け入れていることが分かり、今後も取り組みに期待する。	現状を継続し、地域利用者を受け入れ、地域に必要な施設になるよう努力する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	利用者と家族を理解し、何ができるかを常に考えて支援していることが分かる。厳しい自己評価をしていると感じたが、向上心の表れと理解した。在宅に向けた取り組みという、明確な目標があり、今後も地域を支える事業所であるように期待する。	今後も積極的に在宅利用者を受け入れ、医療ニーズに柔軟に対応できる事業所を目指す。看護職との連携、研修参加による自己啓発も継続していく。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		7	4	1	職員が理念を理解し、利用者の自立支援をしようという考えが伝わります。今後は在宅利用者を積極的に受け入れ、地域に出ようという気持ちが伝わり、今後に期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	2	6	3		理念を理解することは非常に重要なので、理念について、改めて職員間で話し合う機会を持つのも良いでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		3	2	7	目標があつての育成計画なので、職員各々がどのような意識を持っているのか、確認することはいいことだと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	8	2	1	職員不足で研修の機会を失うのはもったいないことなので、自分を高め知識を得る場を今後も確保して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		6	6		特性を生かせるように、定期的な話し合いの場を設け、相互理解に努めて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		9	2	1	施設を地域に開放することは、もともと積極的に行っているため、今後も続けて下さい。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 家族や地域の方からの意見を会議で伝達し、地域に施設を開放するなど、その内容に沿った改善の努力をしている。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	1	9	2		非常に満足度が高い項目なので、今後もこの体制を続けて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 体調不良で休んでも皆でカバーし合い、希望休にも配慮したシフト、子供がいる職員でも働きやすい体制・仕事内容が偏らない業務分担ができています。職員間でも相談やフォローをする気持ちがある。以前は発言しにくい雰囲気があったが、今は話しやすい雰囲気になった。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	2	8	2		今できていることを今後も継続して下さい。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> その都度、職員で話し合い、決定事項や変更は申し送りや連絡ノートで周知できている。</p>							
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	2	8	2		事故や安全対策は重要な項目なので、必要と思われる改善点は今後見直しをして下さい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 事故報告、ハヤリハットの記入や、事故を検証し対策について話し合っている。また交通安全、車両点検を徹底している。開設時から数年経過し、利用者の変化や、業務内容も変わってきている為、新たな業務手順書やマニュアル見直しが必要な時期。</p>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	1	4	7		アンケートをとった時期から現時点で在宅の利用者が増えているとのことなので、緊急連絡先、在宅利用者に対するマニュアルなどは必要になってくるでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		7	2	1	上記同様、在宅利用者が増えているようなので、今後は家族等も含めた 24h 支えられる体制を考える時期だと思います。職員確保も重要だと思うので、法人として採用を努力して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		4	5	2	看護と介護の協働は事業所としての特色なので、是非、良いケアが提供できるようにして下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		10	1	1	利用者や家族の思いを理解し共有することはケアに際し重要な点だと思います。伝達する場を今後も確保して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		9	2	1	以前の推進会議で、デイサービスの理学療法士の協力を得て、機能訓練の指導を受けているとの話がありましたが、事業所の壁を越えて協力していることは良い取り組みです。今後も継続して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		4	7	1	看護師との積極的な情報交換、報告、連絡、相談を通じてプランニングし、利用者や家族を支える体制を継続して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		9	2		<p>利用者の変化について情報共有し、早急に対応している体制が作られているようです。今後も継続して下さい。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> (無回答 1) 状況把握はその都度行い、変化時は適宜プランを変更している。利用者の変化や変更があった時は会議等で話し合い対応している。</p>	<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		6	5	1	<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者や家族から今後の意向を聞き、変化や変更に対して相談し柔軟に対応している。状態改善したら訪問時間を短縮する等、状態把握の上、計画を変更している。訪問時の家族とのやり取りは、家族が仕事等で不在な為、直接話す機会は少ない。連泊利用者は家庭の事情が多く、在宅復帰はできないケースが多い。</p> <p>家庭事情が絡み、連泊者が多く、サービスの偏りは致し方ない面がありますが、今後は地域に積極的に出ようという姿勢がみられるので、期待します。家族等の生活状態を把握するのは都度の訪問で難しくても、定期的にモニタリングできているようなので、今後も継続して下さい。</p>	<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		4	6	1	サービスの特性から、他事業所や他サービスとの関わりは少ないようですが、訪問マッサージや訪問歯科診療等、個別的に関わっているものもあるようです。まずは今関わりのあるサービスとの連携を図りましょう。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
<p>〔具体的な状況・取組内容〕（無回答 1）</p> <p>主治医の指示を看護師から伝達し、迅速に介護職が実践している。チーム内の話し合いはあるが、多職種、特に医師となるとその機会は少ない。また、他事業との関わりも少なく、状況的にはあまりできていないと思われる。</p>							
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		9	3		評価の高い項目です。看護と介護が協力できるサービスの特性を今後も継続して下さい。	<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>
<p>〔具体的な状況・取組内容〕</p> <p>当日の勤務者や利用者の状況によって無理のないように役割や業務分担をしている。看護職が介護職の法律で定められている医療行為についてできること・できないことを理解して協力できるようになった。</p>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		4	7		それぞれの役割はできているようですが、情報を共有して支援が連動する方法を工夫してみてください。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> （無回答 1） 急変時等迅速な報告、看護職が介入し医師への連絡等、協力して対応できている。看護師を含めた申し送りの体制ができていない為、情報共有の方法を考えていく必要がある。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		6	6		その都度必要な医療的研修、勉強はしているようですが、日常的に看護師との話し合いや申し送りができるようなやり方を考えてもよさそうです。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 病気別の主症状や変化の見分け方、対応方法等を看護師から指導してもらっている。勉強会への看護師の参加が少なく、話し合いの場が少ない為、改善していく必要がある。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		8	3	1	サービスの特性をきちんと説明し同意を得ていることが分かります。利用者に対しては理解を得ることは難しいかもしれませんが、伝えようとするその姿勢は無くさないで下さい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> サービスの特徴は利用前に説明し理解を得られている、不明な点は上司に確認してから説明している。家族は理解できても、利用者が理解するには少し難しい制度だと思う。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		7	3	2	上記同様、家族、利用者共に説明する手間を惜しまず、今の対応を継続して下さい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 担当者会議や家族が来た際に随時説明や助言は行えている。家族は理解できても利用者の理解を得るのは認知症の度合もあり難しい。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	4	3	4	上記同様、家族、利用者共に説明する手間を惜しまず、今の対応を継続して下さい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 家族や利用者からの質問に随時説明し対応しているが、連泊利用が多く、医療機器も職員管理が殆どで家族や利用者に説明する必要性が低い。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		10		2	十分対応しているようなので、今の体制を継続し更に良いものにして下さい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 適宜必要な時期に緊急時の対応や看取りの意向を聞き取りし要望に沿った支援をしているが、ここ数年看取りの対象者がいない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		3	5	3	最近では在宅の相談が増えてきているとのことなので、今後はこの項目も充実した対応になるよう期待します。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] (無回答 1) 在宅利用者に関しては将来の方向性や考え方を聞き予め想定しているが、連泊利用者が殆どで、在宅継続の検討をするケースが少ない。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		5	2	3	近年は看取りケースがないようですが、マニュアルの整備と受け入れ体制は整っているようなので今後も継続して下さい。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] (無回答 2) 経過や記録をとり確認できるようにしているが、終末期ケアのケースがここ数年該当なし。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		4	7		退院前カンファレンス等を通じて連携できているようです。連泊の相談が多く、今までは在宅の退院は少なかったようですが、最近はそのようなケースも出てきているとのこと、今後も連携を継続して下さい。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		[具体的な状況・取組内容] (無回答 1) 退院前カンファレンスの実施で円滑な支援ができており、病院との連携はとれていると思うが、連泊の相談が多く、在宅退院が少ない為、本当の意味での在宅復帰の支援が少ない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる	1	3	5	2	<p>[具体的な状況・取組内容] (無回答 1)</p> <p>緊急時や相談があったときは都度連絡をとり、指示受け・情報共有できているが、その役割を担うのは看護師や管理者、ケアマネである。</p> <p>専門職や管理者等、然るべき立場の人が主に緊急時の連携を図っているようですが、最近家族への報告等、一般職員も関わっているとのこと、今後も皆で協力して情報共有や連携を図って下さい。</p>	<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	8	1	1	<p>[具体的な状況・取組内容] (無回答 1)</p> <p>夜間でもオンコールで看護師や主治医から指示受けできる体制がある。</p> <p>夜間休日等も対応できる体制があるようなので、今後も継続して下さい。</p>	<p>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
(2) 多職種との連携体制の構築							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	1	2	3	6	地域包括ケアやインフォーマルサービス等の取り組みは事業所だけでは難しいものです。地域包括ケア自体が始まったばかりなので、今後も地域と協力していく項目でしょう。今回の話し合いでは町内清掃や地区のお祭りの参加等の話がでたので、少しずつ関わりを考えていきましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	3	5	1	1	高齢者の中にはウェブサイトを見る機会がない方もいるので、回覧板を活用して広報誌をみてもらう等の方法も考えてはどうでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		3	5	3	今できているものを継続し、これから何ができるかを少しずつ考えていきましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		1	2	7	訪問看護としての活動はこれから積極的に動いていくとのことなので、期待しています。リーフレットを作成したとのこと、是非地域にも情報発信して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	5	7			“よく・おおよそ” 合わせて100%の回答です。痰吸引の受入先が少ない現状の中で職員全員が高い意識を持って受け入れていることが分かります。これからも継続して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		1		6	人工呼吸器は痰吸引ともまた違った難しさがありますが、受け入れの相談があった場合は是非前向きな検討をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		9	1	1	近年看取りの対象者がいな かったということですが、体 制は整えられているよう です。今後も継続して下さ い。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシステ ムの構築方針や計画の内容 等について理解している		2	3	5	地域包括ケアシステムを理 解する努力をして、今後の支 援や事業に反映して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解するこ とが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針 や計画などが無い場合は、「全く できていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1	4	4	3	アンケートをとった時点では在宅利用者が少ないようですが、最近は徐々に増えてきているとのことで、今後の支援に期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		3	2	7	本日の会議で、町内会の行事や取組に出向こうという意気込みや考えが聞かれた為、それを実行できるようにして欲下さい。いずれにしても、職員が充足してできることと思うので、職員数が充実することを望みます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		3	5	3	在宅利用者が増えてきている今後に地域に向けた活動を期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p>【具体的な状況・取組内容】（無回答 1）</p> <p>WEBによる情報提供、広報誌による発信。利用者や家族との関わりはあるが、地域や近隣住民等に対しての活動はできていない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 介護員による生活リハビリの実施、看護師による機能訓練の実施を計画に位置付け、目標達成できている。	現在取り組んでいることを継続して下さい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> サービスの導入により、安心感が得られ、概ね目標達成できている。	在宅利用者が増えてきているのは、支援が評価されていることだと思うので、今後も継続して下さい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 現時点で対象者なし	在宅利用者が増えると将来的には検討していく必要がある項目なので、今後も看取りの体制を継続して下さい。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」